

# 平成20年度 富山市民感謝と誓いのつどい

とき：平成20年8月1日（金）午後1時30分  
ところ：富山国際会議場 メインホール  
（大手町フォーラム）



中学生作文最優秀賞

## 「富山が誇る富山市民」

富山市民立奥田中学校 二年生 嶋 桃子

富山は、とても豊かで、素晴らしい所だと思います。街に行けば、欲しい物をすぐに買うことができます。いろいろな店がたくさんあります。とても便利です。しかし、私たちがこれだけ便利で豊かで、幸せな生活ができるのは、どうしてなのか、考えたことはあるでしょうか。

一九四五年八月一日、富山県である大きな事件が起きました。「富山大空襲」です。「ウー、ウー」という空襲警報が鳴り続ける中、アメリカの爆撃機、B29が百七十四機も来襲し、焼夷弾や小型爆弾を五十万個以上も落としました。死者と負傷者を合わせ、二万六千三十七人。それだけではありません。家屋も二万四千九百戸以上が焼失し、辺り一面焼け野原になりました。全てが燃えてしまったのです。生き残った人々には、住む家もありません。

私は、こんなにも多くの人がけがをしたり、死んでしまったり、住む家がなくなったり、たたり、住む家がなくなったりしたことを知り、その状況を考えただけでも悲しくなりました。心が痛みました。もし、私たちがその時代に生きていて、支援することのできる立場にいたならば、すぐに家をつくらせたり、病院をつくらせたり、食糧をあげたりすると思います。

そこで、私は当時のことをさらに詳しく調べてみました。すると、この時代の人々を支えようとする、とても心強い人たちがおられたことが分かりました。

戦後、「都市計画案」が発案されました。その計画に沿って富山駅を中心とした道路の整備や、工業の復興をはじめとして、河口域には、大規模な火力発電所が整備され、家もたくさん建てられました。また、戦後の復興を全市民で誓い合う象徴として、花火が打ち上げられました。さらに、富山に活気を取り戻そうと、「チンドンコンクール」が行われ、全国から二十万人の人が集まりました。こうして富山はみごとにあの悲惨な空襲から立ち直ったのです。花火大会やチンドンコンクールは今も続けられており、多くの人々を楽しませてくれます。

私は、富山の復興に努力してくださった心強い方々とは、富山市民全員だと思っています。もしも、あの時代に復興に向けて努力する人々がいなかったら、今の明るい富山はなかったと思います。当時の市民の皆様が、あつたからこそ、輝きのある今があり、明日につながっていくのだと思います。みんな力を合わせ、市全体に活気があふれることは、とても素晴らしいことだと思います。

今、私は、復興の計画を発案してくださった方々、そして誇りある富山市民の皆様に対して感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。私はいくらも、富山市民の一人として、富山市のさらに明るい未来に向かって、自分にできることは何かを考え、努力していきたいと考えています。

小学生絵画最優秀賞



5・6年生の部

「竜幹線の上から見る富山ビル球場」

富山市民立小見小学校 5年1組 山元 令壺 さんの作品



3・4年生の部

「未来が美しく楽しく」

富山市民立新保小学校 3年1組 佐藤 和奏 さんの作品

### 富山市のあゆみ展

■日時・場所

7月22日☒～7月30日☒  
午前10時～午後9時  
大沢野健康福祉センター  
ウインディ

8月4日☒～8月11日☒  
午前10時～午後9時  
CiC  
1F インフォメーション前広場  
3F 市民交流館 フロア

8月12日☒～8月18日☒  
午前8時30分～午後7時  
富山市民役所  
1F 多目的コーナー

■内容

富山市の歴史、観光行事等の紹介や、市民生活の変遷を写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山」も展示します。

### 主催／富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市民

富山市民自治振興連絡協議会  
富山市民長寿会連合会  
富山市民女性団体等連絡協議会  
富山市民青年団協議会  
富山市民中学校長会

富山市民社会福祉協議会  
富山市民生委員児童委員協議会  
富山市民婦人会  
富山市民PTA連絡協議会

富山市民遺族会  
富山市民児童クラブ連絡協議会  
富山市民母親クラブ連絡協議会  
富山市民小学校長会

# 「この世の地獄」

富山市鹿島町 魚谷 尚之

七月末の夜十時ごろ、灯火管制で暗黒の夜空に米軍の照明弾が投下され、強烈な白昼光が二、三分位空中をゆらゆら漂いながら、ゆっくり降下して消えた。

八月二日夜十時、空襲警報発令後、B29の低い爆音が二、三十分鳴り止まず異様に思ったが、投弾は無く姿も全く見えず仕舞であった。(戦後調べでは、長岡に行つた百二十機とのこと)

ただ、爆音がとてつとやみの夜の中、星井町の我が家の上空東寄り二度にわたり、橙色の曳光弾が西北から南東に向けてタタタと連続発射されたのを目撃した。しかし爆音から見ても友軍は機がB29より低空のため弾が届かず、米軍の応戦は無く、無視されたように思われた。

十時半過ぎ、空襲が投弾無く終わったので着服・巻脚半のまま、座敷の布団に入った。熟睡していたので、二時零時十五分発令の空襲警報のサイレンは聞こえなかった。爆撃開始を知った兄の「起きろ」の声に、眠い中、十三歳の私と母と兄は泉水のある庭に出た。深夜の一時過ぎだった。

灯下管制で真っ暗の中、愛宕方向上空と大和テハート周辺の上空が赤く色づいており、B29の大編隊が西から東に飛行しながら西町上空に多量の焼夷弾を投下しているのが庭から見えた。バフバフと大量

に落下して行く焼夷弾の細かい棒状のシロツトが見えるほかに、不思議なことにアルミ箔のような軽くてキラキラ光るものが空中に漂いながら、時間を掛けて落ちて来るのが見えた。電波探知機攪乱用に金属片をまくことがあると聞いていたが、大爆撃の最中にまくのに、どんな意味があるのか理解できなかった。

米機の編隊は、西町側(北側)から順々に南側方向(わが家を含む富山市外周方向)に逐次爆撃の通り道を移動させ、ちょうど二時半ごろだろうか、ついにわが家の被爆の瞬間がやってきた。

日本の反撃が皆無のためか、B29は下界の炎に映えながら次第に高度を下げて来たため、機体のジュールミン板の接合部まで分かるくらい明瞭に見え、覆いかぶさるようについに接近した。「今度のは危ないぞ、布団をかぶれ」という兄の声で私たちは観念し、庭の泉水の周りの地上に母の手ぬいでの防空頭巾をかぶったまま自分の掛け布団をかぶって齊に伏せた。

テルミット焼夷弾の落下音は、初めは「ヒューツ」と次第に大きく、後は「ザーツ」と変化して尻上がりに音が上がった。着弾までの数秒間は、自分の背中に命中する気がし背筋が凍った。耳も裂ける大音響・地響きと共に焼夷弾は着弾した。

五メートル先の、隣の丁家との境界の木造塀はナパーム焼夷弾により長さ五メートルほど破壊されて吹っ飛び、地面に直径四メートルの穴が開き、周りにアルミ箔臭の硝煙が漂った。同時に家の中から庭を見て

いた姉の話では、テルミット焼夷弾が松の木に命中して発火し、その下で空を見ていた兄のすぐ横に火の粉が降った。

私の伏せた五メートル先には、六角形で棒状の五・六発のテルミット焼夷弾が地面に刺さったまま、噴水のように火の粉を上方に噴き上げ、その火の粉が松の枝など庭木に降りかかって「チラチラ」光り、「暗やみに輝くクリスマスツリー」のようにきれいに見えた。

兄は果敢にも水タンクとほたきで焼夷弾の消火を始めたが、隣近所は人の気配が全く無く、消火は不可能な状態だった。

第二波来襲必至の時、父が「表が出火したから裏に逃げよう」と言い、靴のまま真っ暗な家の中にとると、第一波の焼夷弾数発が激しい激突音と共に屋根と天井を突き抜けて粉塵と共に落下し、畳を貫通した。「裏に行ったら逃げられない」と大声で兄が言った。

玄関から表通りに逃げることになり、外に出た瞬間、「バリツ」という音と共に第三波の焼夷弾が玄関前の松の太木の枝に命中し、小枝が瞬間に裂けて落ちてきた。

表道路に出ると、道に面して建っている木造一階建ての星井町国民学校は燃え、既に校舎の奥側(西側)が炎に包まれた。周期的にその炎がこちらに吹き寄せて来た際に、校舎の窓ガラスが、水滴がしたたるように溶け落ちる。母校の最後として見届けた。

四ツ谷田圃の道には、数千人の避難民が歩いており、私たちはB29の標的にされる恐れありと判断し、右側の田圃のあぜ道

伝いに入り富山刑務所側に向かった。深夜の一時ごろだった。その三十分後、ようやく敵機は姿を消した。

とりあえず大町の伯母宅に避難し、仮眠の後の午前十時ごろ、再び四ツ谷田圃の道に引返し、自宅の焼け跡に戻れないか見に行つた。田圃の路上には、行く先のあてのない多数の被災者がたたくさまだった。

田圃の中では、直撃弾による死体も、苦痛でのたうちまわったのか、稲の青田を直径七メートルくらいに円形になぎ倒したと思われる中央部に、うつ伏せになつて横たわつていた。

近くには、重傷の子供が泣き声も出せず、うなり声を上げており、道路上では頭から胸にかけて鮮血にまみれ何事かを口走っている父親をリヤカーに載せて押して行く母娘がいた。四ツ谷田圃は夜には分らなかったこの世の地獄となつてた。

昭和二十年八月二日の大空襲で数百人の上る悲惨な老幼男女の焼死体を直視した体験は、五十年後の今でも、決して忘れられぬ衝撃として私の心に残っている。



氷見市島尾海岸に漂着した富山空襲の犠牲者を供養するため、現地に建立された慰霊像

# 式典

午後1時30分から

## 1. 富山市の紹介映像

## 2. 「永久の火」入場 奉持者 富山市立藤ノ木中学校3年生 5人

## 3. 国歌斉唱

## 4. 黙とう

## 5. あいさつ

富山市長 森 雅志

## 6. 朗 読

「私の戦争体験記」から  
「この世の地獄」／魚谷 尚之  
朗 読／声のライブラリー友の会 麻生 ひとみ

## 7. 代表献花及び一般献花

## 8. 「永久の火」昇天

## 9. ステージ演奏 富山市立呉羽中学校吹奏楽部

曲目／「ムーンライト・セレナーデ」、「篤姫メインテーマ」ほか 指揮／土肥 真人